

こども
選挙

ちがさきこどもせんきょ

こどもの、
こどもによる、
こどものための選挙。

**もし、こどもが投票したら、
どんな政治家が選ばれるのだろうか？**

**もしかしたら、大人の事情を考えないで、
ピュアな思いを持った人が選ばれるのではないか。**

**もしかしたら、しがらみも政党も関係なく、
人物をまっすぐな目で選ぶのではないか。**

**もしかしたら、曖昧な発言で議論をにごすような人ではなく、
誰にでも分かりやすい言葉を持つ人が選ばれるのではないか。**

そう、もしかしたら大人とは違う、

未来についてまっすぐな視点で選ぶかもしれない。

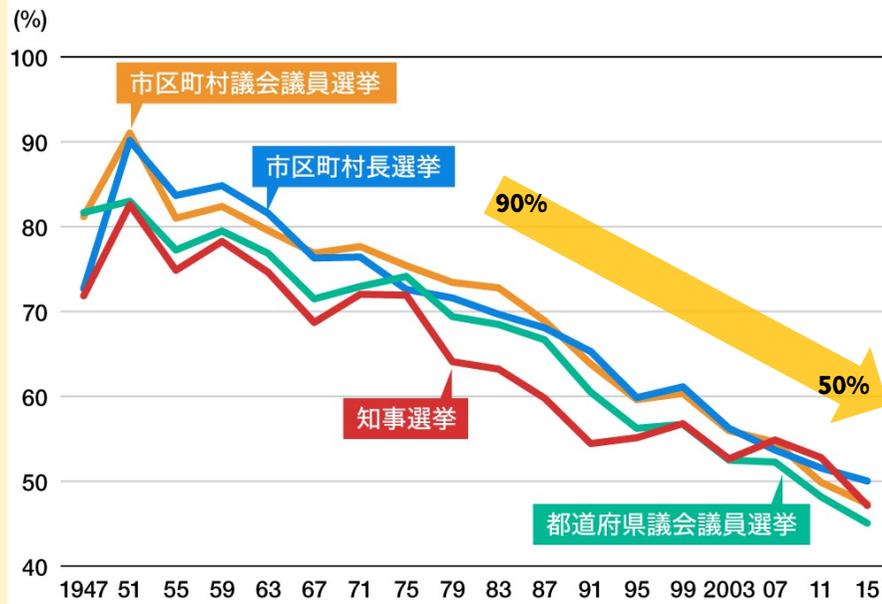
未来を担うのは子どもたち。

当然ですが、大人よりも、子どもの方が生きていく時間が長いです。
つまり、未来をつくる政治の影響は、子どもの方が大きく受けます。

でも、現在の選挙のカタチでは、
子どもの声が政治に反映されることはありません。

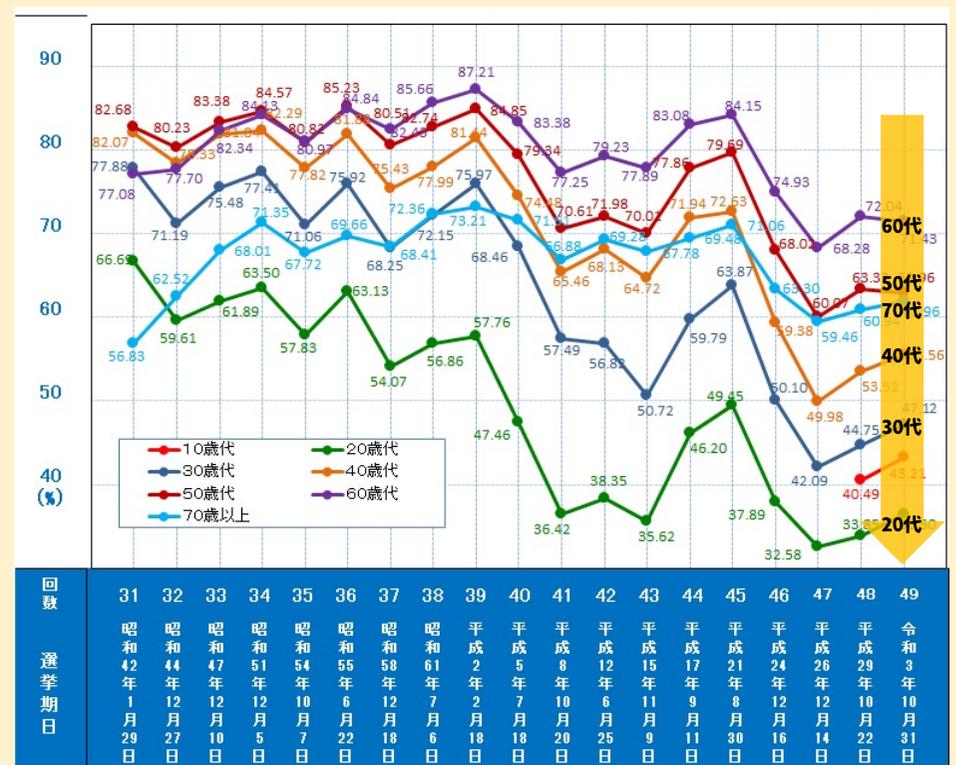
低下し続ける投票率。特に若者。

統一地方選における投票率の推移



出所:総務省資料

nippon.com



若者の投票率向上キャンペーンも、 選挙権18歳へ引き下げも・・・

投票率上げるためのキャンペーンや、若者への呼びかけがなされても、低下し続けているのが実態です。

少子高齢化が進むなかで若者にこそ政治に関与してもらいたいという理由から、選挙年齢が18歳に引き下げられましたが、投票率は芳しくありません。

政治への無関心や、どうせ変わらないという諦めや、現在の日本には様々な課題があります。

6月15日 「こども基本法」 成立

こども基本法

(基本理念)

第三条 こども施策は、次に掲げる事項を基本理念として行われなければならない。

(略)

三 全てのこどもについて、その年齢及び発達の程度に応じて、自己に直接関係する全ての事項に関して意見を表明する機会及び多様な社会的活動に参画する機会が確保されること。

四 全てのこどもについて、その年齢及び発達の程度に応じて、その意見が尊重され、その最善の利益が優先して考慮されること。

(略)

選挙権より大切なこと。

選挙権を持つことも大切、投票することも大切。

でも、もっと大切なことは、

そもそも一人ひとりが未来について考えを持ち、

その声が政治に届くことなのではないでしょうか。

選挙権はなくとも、政治には参加できる。

こどもが選んだ人、こどもが選んだ視点、こどもが選んだ理由、
こどもの声を政治に届けること。

それが大きな塊りになって、可視化されれば、
何かが変わるかもしれない。

だから、「こども選挙」をやります！

2022年10月30日、地元の茅ヶ崎で行われる市長選の裏で同時開催。

こども 選挙

ちがさきこどもせんきょ

こどもが市長を選ぶとしたら、**どんな視点で選ぶのだろう。**

こどもが立候補者にインタビューするとしたら、**どんなことを聞くのだろう。**

こどもは自分が選んだ候補者に、**どんな想いを届けるのだろう。**

こどもが聞いて、こどもが選んで、こどもが届ける。

2022年10月30日 **茅ヶ崎市長選挙と同時に「ちがさきこども選挙」**を開催します。

茅ヶ崎在住のすべてのこどもたち（小学生～17才）に投票権があります。

こどもたちが自分のまちの未来を考える「**こども選挙**」はじまります。

こどもが聞く

茅ヶ崎市長選の立候補者に、こどもが独自の視点でインタビュー。
その様子は、WEBで動画配信するとともに、「こども選挙新聞」を発行します。



こどもが**選ぶ**

選挙日当日、大人は正規の投票所へ、こどもは「こども選挙投票所」へ。
さらにネット投票も実施します。
こどもが選んだ市長を、市長選結果発表の後に公開します。



こどもが届ける

投票用紙には「選んだ思い」を記入してもらい、その結果をまとめて後日こどもの手で市長候補者たちに届けます。



こども選挙の狙い

- こどもが政治に興味を持ち、**街のことを考えるきっかけに。**
- こどもが聞くと、**政治家も分かりやすく答えてくれるはず。**
- こどもが投票するんだったら、**おとなの投票率も上がる！？**
- こども選挙の結果と正規選挙の結果の対比で、**市政自体への興味関心が高まる**
- 選挙結果が違った場合、それは**なぜ違う結果なのか**という視点で市政に届く。
選挙結果が同じ場合でも、こどもが**なぜ選んだのか**の声が市政に届く。

こども選挙管理委員会

インタビューの実施やこども選挙新聞をつくるこどもたちを「こども選挙管理委員会」と称して、メンバーを集めます。

○ 対象年齢 : 小学3年生～高校生

○ 定員 : 10～15名程度

こども選挙管理委員会 事前活動

こどもの意見
ワークショップ

茅ヶ崎のいいところ
変わって欲しいところ
疑問や問題など
付箋に描いて可視化する

選挙と民主主義
の勉強会

民主主義とは？
選挙とは？
市民の権利について
基本的なことを伝える

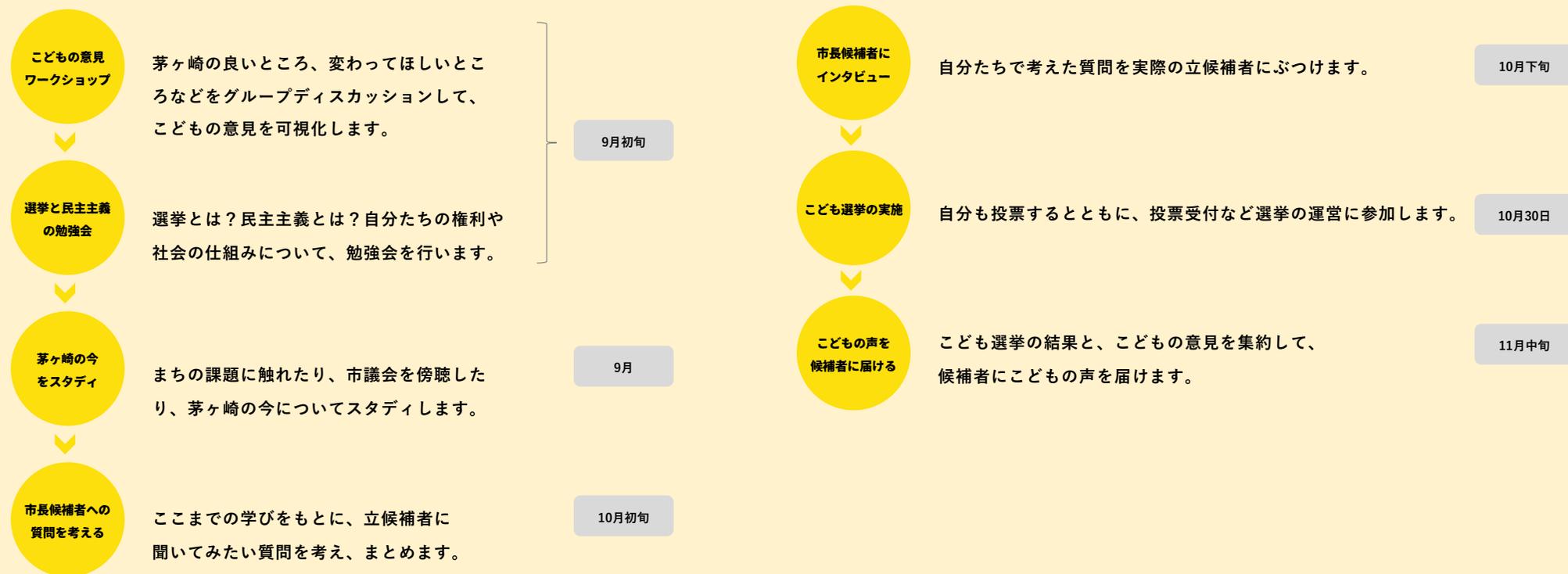
茅ヶ崎の今
をスタディ

- ・市議会体験
- ・茅ヶ崎の今セミナー

市長候補者への
質問を考える

候補者にインタビュー
する内容を各自が考える

全体プログラム



※実際の内容は異なる場合があることをご了承ください。

参考事例

アメリカ大統領選の模擬選挙では、**小学校から高校までの生徒25万人が投票。**



(CNN) 今年の米大統領選は民主党のオバマ大統領が勝利——。教育雑誌が全米の児童生徒を対象に実施している恒例の模擬選挙で18日までに、そんな結果が出た。1940年以来行われている恒例の模擬選で、外れたのは2回だけという。

模擬選挙は学習の一環として、スカラスティック・クラスルーム誌が4年ごとの大統領選の年に実施。今年は8月15日から10月10日にかけて、小学校から高校までの児童と生徒約25万人が投票した。

若者の投票率**80%超**のスウェーデンでは**学校で模擬選挙**を行っている。

A screenshot of an article from Eduwell Journal. The header features the site name 'Eduwell Journal' and navigation links for 'ホーム', 'テーマ別の記事一覧', '人気の記事一覧', and '配'. The breadcrumb trail reads: 'ホーム > 国内に関する記事 > シチズンシップ教育 > 若者の投票率80%超のスウェーデンが行う模擬選挙とは？（後編） - 学校で政治的なイベントを推奨！生徒の抗議活動も民主主義の一つ'. The article title is '若者の投票率80%超のスウェーデンが行う模擬選挙とは？（後編） - 学校で政治的なイベントを推奨！生徒の抗議活動も民主主義の一つ'. Below the title are social sharing buttons for 'スクリーンショット', 'Facebook', 'はてブ', 'Pocket', 'LINE', and 'コピー'. The date '© 2018.11.12' is shown. The main text discusses political education and school elections in Sweden, mentioning that 18-year-olds can vote and that schools hold 'school elections' where students practice voting. It also mentions a visit to a Swedish school in June 2018 for 'School Election 2018' and identifies the reporter as Julia.

18歳で投票ができるようになり、「政治教育」や「主権者教育」に注目が集まっています。政治的な話題をどのように扱ったら良いかが様々に議論されています。若者参加の先進国のスウェーデンでは、国を挙げて「学校選挙」に取り組んでいます。未成年模擬選挙と同じように、選挙がある時に18歳未満の選挙権のない学校の生徒が選挙を「練習」をすることができます。

2018年6月のスウェーデン視察時に、「学校選挙2018」を実施しているスウェーデン生徒組合の事務所に訪問しました。前編に引き続き、弱冠20歳の事務局の広報部のジュリア（Julia

**こどもから、茅ヶ崎へ。
茅ヶ崎から、日本へ。**